

61th 信州上肢外科研究会報告

2012/11/17 信州大学外来棟 4階 出席者数 27名

1. 一般講演

山崎宏先生

1) 橈骨遠位端骨折にたいする関節鏡視下手術について

prospective randomized study : 関節鏡視下かイメージか整復か

DASH 24w で差が出た。関節鏡視下の方が点数高かった。3例あった。

その原因は関節内整復状態の差というよりも、手術による合併症や、併発する疾患によるものであった。

高齢者においてはあえて関節鏡視下手術を行う必要はない。

2) ロッキングプレート固定後 FPL 断裂 2.5~12%の確率

嚙音は 16%にあった。

診断能。US と嚙音 ほぼ同等

FPL 腱に関する解剖に関して、正常の音に関しての質問あり。

抜釘したほうがよいのか？ 3年前までには抜かなくてよいのではないと言われていたが、最近ケースバイケースで、どれを抜いた方がよいのかということとははっきりとはわかっていない

Watershed line を越えていなかったら大丈夫だろう。越えている場合が問題。

2. 特別講演

砂川教授講演

橈骨遠位端骨折治療に関する全般的な内容。ファンクショナル MRI, 利き手罹患の問題、3次元動作解析

3. Hand on Seminar

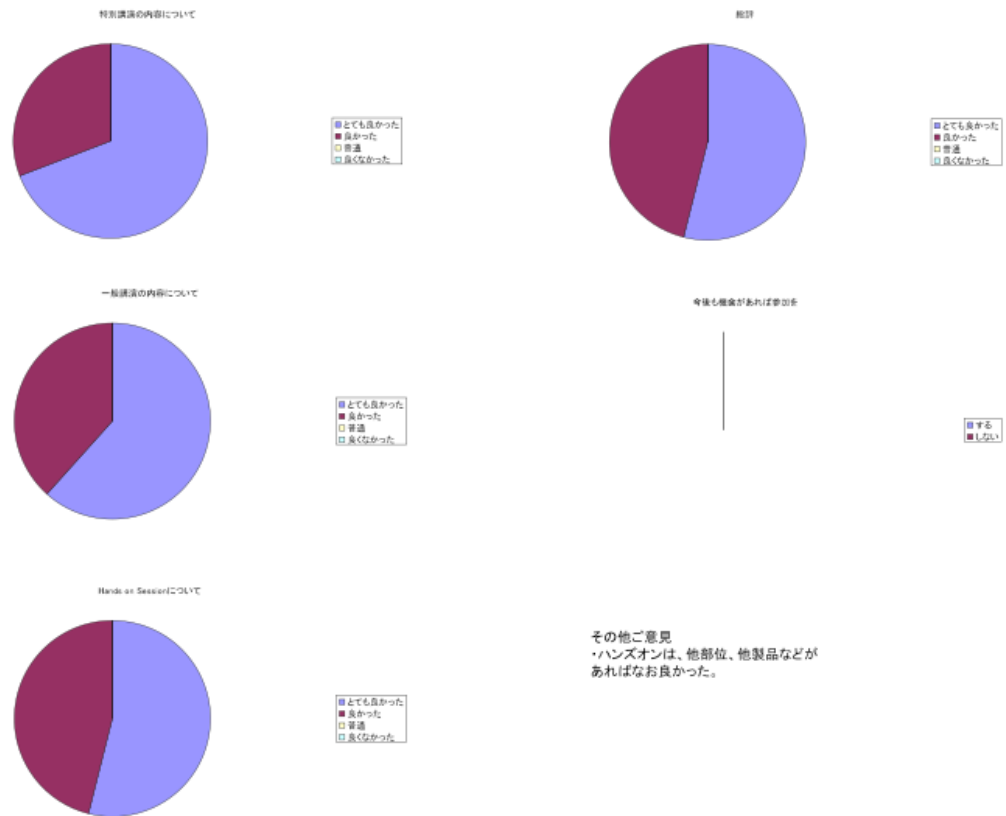
橈骨遠位端模型を使って Locking plate 固定の実習を行った。

4. 懇親会



砂川先生の講演は、橈骨遠位端骨折の治療法について幅広くお話しいただき、大変勉強になりました。functionalMRIを用いての脳血流量変化測定へと研究の領域を広げておられ今後の新たな展開が期待されます。参加者からは、この骨折ひとつでも知らないことが多い、勉強しなければならないことは山ほどある、との声も聞かれました。

今回は、研究会の評価を参加者の皆様に依頼いたしまして、13名の方からお答えいただきました。その結果をふまえ今後の会の運営の改善を図っていきたいと思います。結果は添付ファイル参照してください。



次回は 2013 年 3 月 9 日 土曜日 午後 4 時から ホテル ブエナビスタ で開催です。特別講演は 産業医科大学 整形外科 准教授 酒井昭典先生。